

第五回 阿武隈川本宮左岸地区まちづくり懇談会 議事要旨

日程：平成21年3月30日（月）

14：00～16：00

会場：本宮市役所 3F 大会議室

（発言者） ●：委員 ○：事務局

（1）懇談会の背景と趣旨、（2）事業の進め方及び今年度の経緯について

- ニュースレターは、どの範囲まで配布しているのか。
- 本宮市全域に配布及び回覧している。

（3）A・C-2ゾーンの堤防設計について

- この懇談会では、どの部分について意見を言うことができるのか教えて欲しい。
- 堤防の形状の部分は地域の意見を踏まえて確定している。堤防の上の道路の問題点や、親水施設等についてはいろいろご意見を伺いたい。

〔排水及び内水処理について〕

- 内水関係の話は、住民も心配している。個人的にもAゾーンの中から直接阿武隈川に排水するのが一番良いのではと思っている。
築堤整備が具体的になってきた。我々も主体的に行っていく必要がある。親水施設について、ビューポイントに関しては、行政が管理する場もあってよいのではないか。
- Aゾーンの内水は設計上考慮されているのか。
- 川側の水位が高く、樋門が閉まった状態で宅地側が浸水している状態が内水である。堤防に樋門樋管の穴があって、川側の水位が低い場合には阿武隈川に流れるようになっており、川側の水位が高く樋管が閉まった状態での話である。
- 昭和51年頃、下水道計画と同時に雨水排水計画が策定された。その計画では、東町地区に溜まった雨水は、館町のポンプ場から安達太良川に排水するものとしている。地元からの要望は、上流側から流すのではなく、東町裏など地盤の低いところからポンプで排水してほしいということである。
計画は国の認可を受けているものであり、現在、県と協議中である。

- Aゾーンについては、東町地区にある6本の樋管を統合するということが、統合してもきちんと排水出来るようになるのか。
- 地域からも意見をたくさんいただいた。堤防の法尻に雨水を集め、水路で一箇所に集めて排水する。樋管の断面も当然大きくなる。集める堤防法尻の水路も大きくなる。許容できる大きさを考え設計を行っている。
- 東町では、近年の洪水では6カ所にポンプを設置している。消防ポンプ5～6台を設置しているが、これは直径50～150mmのポンプであり、雨水排水としては小さい規模である。
現在の検討では、直径350～400mmのポンプを2台設置し、樋管を1カ所に統合しても5分程度で排水可能になるようなポンプの設置を目指している。

〔用地関係について〕

- Aゾーンは何ヶ所か移転する世帯があり、Bゾーンになるともっと多くなると思う。その場合、集団移転を考えているのか、部分的に考えているのか。
- Aゾーンについては、かなりの移転件数になる。C-2ゾーンについても数軒移転する世帯がある。
B、C-1ゾーンについては、なるべく移転しなくて済むように検討していく必要がある。
Aゾーンについては、集団移転ではなく、自己用地も持っている人がいる。用地のない方については、弁天の区画整理を行った土地へ。C-2ゾーンについては、対象家屋は少ないが、今後希望地を伺う予定である。
- 移転により商業者がいなくなることによって、生活に必要な購買が厳しくなることはないか。
- A及びC-2ゾーンについては、現段階では商業者の移転はない。

〔堤防上の管理用通路について〕

- Aゾーンの堤防沿いは、県道が昭代橋付近で渋滞するので、すれ違いが厳しいくらいの幅にも関わらず（渋滞を回避するため）車が通行している。今後も堤防上の道路が通行できれば渋滞が緩和されるのではないかと希望的に考える。
- 現在、通行止めを7～9時の時間帯により実施している。県道が混雑する時間帯なので、安全性を考えると通行止めが望ましいと思うが、全面通行止めについては、弁天地区から北側の利用者がいることから答えを出せないでいる。
- 堤防上の通路が拡幅整備されることにより車のスピードが出やすくなる。車のスピードが出ないように制御しながら通行できるようにすればどうか。
- 堤防上は小学生も通る。（県道が渋滞するなどということ）車も通行させたいということだが、昭代橋の交差点は右折車が多く、右折出来ないので渋滞する。右折信号をつければ緩和されるのではないか。県道の交差点の改良も対策として考えられる。

- 堤防上の道路に関しては、現状で時間帯別にどのくらいの通行量があるか調べてみてはどうか。そのデータを基に検討した方が良いと思う。
- 道路を人が歩くのは危ない。弁天地区は区画整理後、道路が6m幅になったが、実際には車も通り、歩道があれば良いが、安全確保は現実には難しい。歩行者や学童の安全の確保を考えると大変なことと思う。
立派な道路になり住民が利用できるようになるのはよいことだが、利用の確保と安全の確保は非常に難しい。脇に1mでも歩道があれば良いのだが。
立派になれば車は走りたくなる。
- できれば安全を確保して、その上で利用を考えていく必要がある。

〔親水施設等の環境整備について〕

- パラペットの修景に関して、全体の統一感を、という意見があったが。今後どのように考えていくのか。
- パラペットの修景は、B～C-1ゾーンの意見も踏まえて議論を深める必要があると考える。今後、具体のものを提示していきたい。
- 昔は堤防上に桜があったが、最近では、堤防の上に植樹は出来ないのか。
- 堤防計画で、堤防の中には植樹できない。昔から堤防に並木がある場合と違い、新しく堤防を作る際、仮に植樹する場合は、堤防の外側に、側帯といった植樹するためのスペースを更に広く設けることになっている。
- 小野町や常葉、川桁など、川沿いの桜並木が綺麗だが、あれは堤防上ではないのか。
- 昔の堤防ではそうだったが、今は、堤防に桜の根がはると堤防が弱くなると言われている。
- パラペットのデザインに関しては、統一性の話もあるので、もう少し時間をかけて議論してもよいのではないかと。この委員会よりも、地元の意見を重要視した方が良いと思う。
ここまでまとめていただいた事は有り難いと思う。
- 親水施設に関しては、どこまで意見を盛り込めるのか。
- 散策路の設計は具体的に進めたい。散策路の位置について、川に近くとるか、堤防に近くとるか、また泥が溜まらないような工夫はできないかなど。広場や休憩施設についても、地域とキャッチボールしながら形にしていきたい。

(4) B・C-1ゾーンのアンケート結果について

〔整備の方向性について〕

- 嵩上げの件について、「望ましい案」で整備が進むと認識していた。基本案については、県道との関係で川側が高くなり、幅が広ければ良いが、幅の狭い所ほど景観上よくないと思う。また、近所の行き来もしづらくなるので、望ましい案が一番良いと思う。MotComでもこの件について良く聞かれる。

C-2ゾーンになると県道の方がパラペットより低くなっており、今後どのようになるのかと思いついて見ている。

親水施設について、現状では歩く人は皆さん堤防の上を歩いている。護岸の下は樋管があるので、連続して通れないが、連続して通れるようになって、下は歩かないのではないかなと思う。

- 望ましい案に向けての関係機関の連携はどのようなものか。
- 県道との高さ関係は場所により違って来る。この模型では表せない。
「望ましい案」は地域の総意が必要である。堤防事業だけではなく面的な事業などとの連携が必要である。

〔アンケートの内容について〕

- アンケート結果について、B～C-1ゾーンは自営業者が多い。今後10年の事業であるが、これからの10年間で我々の次の世代に継承できるかどうか課題である。

願いがある。商工会も今後積極的に参加し、この事業とあわせて継承を行っていききたい。

最近廃業が多くなっている。その理由として、①後継者がいない。②後継者がいてもやらない。③後継者がいても経営者がやらせない。といったパターンがある。今後10年間で4割は継承出来ないのではと思う。継承出来るようにしたい。

アンケートについては、後継者がいるかどうかをアンケート項目に追加した方がより良い整理が出来ると思う。ただ、建物が新しくなっても、承継しなければしょうがない。

リノベーション事業が実施された中條地区では、商店数が増えた。

建物が新しくなってハードが新しくなると若い人が来る。積極的に関わって次世代につなげていきたい。

- 後継者がいても、お嫁さんが来なければ駄目である。結婚して子供を作って継承していくことがまちづくりとして重要なことである。

(5) その他

〔事業計画について〕

- 前の懇談会で概ね10年と言っていたが、今回も概ね10年とある。スタートはいつなのか。
- 来年になっても同じ10年ということは無い。着実に進めていくつもりである。

〔用地測量について〕

- 測量している所に、黄色い杭と赤い杭があるが、それぞれ何を意味しているのか。
- 黄色は堤防範囲を示しており、事業にあたって譲渡して欲しい位置を示している。
赤色は建物や土地の形状の変化点を示している。

〔今後の体制について〕

- 本宮市では「阿武隈川左岸築堤対策室」を4名体制で4月1日に設置する。

－ 以上 －